



- ◆国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック
- ◆第2660地区ガバナー 大橋 秀典
- ◆クラブテーマ「言葉ではなく行動で」

創立 2000年11月2日
例会日 木曜日 18:30-19:30
例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
事務局 守口市河原町10-5
ホテル・アゴーラ大阪守口5F
TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
会長 長野 良雄
幹事 水谷 武志
会報担当 クラブ運営委員会
E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
http://www.7b.biglobe.ne.jp/~m-eveningrc/
m-eveningrc/

本日例会 2025年 4月17日(木) 第997回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

担当：クラブ運営委員会

卓話：「配偶者居住権」

金崎 正明 会員

前回例会 2025年 4月10日(木) 第996回

1. 開 会 会 長
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 四つのテスト唱和
5. お客様のご紹介
卓話講師 大阪府赤十字血液センター
門真献血ルーム所長 川口 広志 様
ビジター 石川 裕様(大阪東RC)
米山奨学生 宋 ハヌルさん
6. 会食
7. 委員会報告
4/3米山オリエンテーション出席報告
小林カウンセラー
8. 幹事報告
- 定例理事会報告
①大阪鶴見RC創立40周年式典の件(承認)
長野会長出席
②5月親睦例会の件(承認)
アゴーラビアガーデンで開催
○4/17 親睦例会開催 食事会場「マジョリカ」
9. 出席報告(会員総数17名)
4月10日 出席 9名 欠席8名 出席率52.94%
メイクアップ報告
3月 6日 出席11名 欠席6名 出席率64.71%
(メイクアップ者 1名)
10. 本日のプログラム
担 当：社会奉仕委員会
講 話：「献血について」
講 師：大阪府赤十字血液センター
門真献血ルーム所長 川口 広志 様
11. 閉 会 会 長
○例会前の会合 定例理事会

◆米山オリエンテーション出席報告

小林 澄子カウンセラー

○世話クラブとカウンセラーの役割

奨学生は所属する世話クラブ全体での交流を通じて、ロータリー精神を学び、その活動や日本人の心に触れることができます。カウンセラーは奨学生と世話クラブ会員との懸け橋であり、奨学生がいろいろな行事に参加する勇気を持つように励まし、地区に出てまた違った社会に繋げるパイプ役をします。世話クラブの皆さんは、例会に出席した奨学生の名前を呼んで声掛けしてあげる努力をお願いします。名前を覚えてくれている、気にかけてくれていると感じるだけでも、慣れない環境で勉学に励まなければならない奨学生にとって大きな励みになります。

個人的に交流の場を設けて頂く事は、奨学生にとって嬉しい事でしょう。

○危機管理について世話クラブは心にかけておいてください。

自然災害、健康危機、重大事故、交通事故学校での事故ほか、重大事件、事件を起こす、犯罪に巻き込まれる、詐欺にあうハラスメント...ハラスメントは誤解から生まれる場合もあります。国による習慣の違いなど相手との相互理解を深めておきましょう。

INFORMATION

休会連絡 4月24日(木) 細則休会

次回例会 2025年5月10日(土) 第998回

移動例会「EXPOフェスタ」

会場：松下IMPホール

時間：受付12:30 13:30~16:30

5月の例会予定

5月 1日(木)細則休会

8日(木)振替休会(10日の振替休会)

10日(土)移動例会(EXPOフェスタ)

15日(木)通常例会

22日(木)親睦例会(ビアガーデン)

29日(木)定款例会



卓 話

「献血について」



大阪府赤十字血液センター
門真献血ルーム所長
川口 広志 様

まずはじめに、赤十字についてご説明させていただきます。

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを生かして活動する国際的な組織です。

日本赤十字社はその一員であり、西南戦争における負傷者救護で初めての活動を行って以来、国内外における災害救護をはじめ、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。その一つの分野として血液事業があります。今回は卓話では血液事業についてご説明させていただきます。

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける人を募集し、人の血液を採取し、血液製剤（人の血液またはこれから得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤がある。）として、治療を必要とする患者さんのため、病院等に供給する一連の事業のことをいいます。令和5年度には、全国で約501万人（延べ数）の方々に献血にご協力いただきました。血液は、現代の科学技術をもってしても、未だ人工的に製造することができません。また、献血していただいた血液は、患者さんの治療目的に合わせた分離・加工がなされ、輸血用血液製剤や血漿分画製剤となって治療に使われます。輸血用血液製剤の一つである血小板製剤など、有効期間が非常に短いものがあるため、毎日新しい血液を確保しなくてはなりません。血液製剤は人の血液から作られるため、ウイルス等の混入による感染のリスクを完全には排除できないという特徴を持っており、より安全性を向上させるため、様々な取組がなされています。献血血液に対して、血清学的検査（抗原・抗体検査）やB型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）、E型肝炎ウイルス（HEV）及びヒト免疫不全ウイルス（HIV）の核酸増幅検査（NAT）を実施しており、また全ての製剤について白血球を除去する製造方

法を導入しています。血液製剤による感染が疑われる事例が発生した場合には、遡及調査を行い、速やかに回収等の措置がとれるようにしています。また、倫理性、国際的公平性等の観点から、国内自給（国内で使用される血液製剤が原則として国内で行われる献血により得られた血液を原料として製造されること）を確保することとされています。我が国では、供血の対価として金銭を提供することを禁止し、みなさんの善意による「献血」の推進を図り、国内自給の達成に取り組んでいます。

取り組みに関しても法整備がなされ、献血推進は昭和39年の閣議決定により始まり、昭和49年にはすべての輸血用血液製剤を献血で確保する体制が確立されました。現在は、平成15年に施行された「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に基づき、国、地方公共団体、採血事業者、血液製剤の製造販売業者、医療関係者が協力し、安全性の向上、国内自給及び安定供給の確保、適正使用の推進、公正の確保及び透明性の向上に取り組んでいます。

しかしながら日本は現在少子高齢化が進み、今後さらに将来の血液製剤安定供給に支障をきたす恐れがあります。血液製剤の多くは癌や白血病など、定期的な輸血を必要とされる患者様に使用されます。また輸血を受ける年齢層で言えば50歳以上が約90%となり、今後さらに増加することになります。一方若年層10代から30代の献血者は10年間で約31%も減少しており、現在のままで推移すると2035年の10年後には約46万人の献血者が不足すると推定されています。このような大きな問題を解決するために守口イブニングロータリーメンバー様と問題を共有し、解決を目指す出会いとなれば幸いです。

本日は、赤十字の血液事業についてお話しさせていただきました。皆様のご理解とご協力が、今後の血液製剤の安定供給に大きく寄与することを願っております。未来の医療を支えるために、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

◆◆ 門真献血ルーム ◆◆

場所：大阪府門真市一番町 23-16

門真運転免許試験場別館1階

受付時間：

【400・200mL】

9：00～12：00、13：00～16：30

定休日：土曜日・祝日（振替休日含む）

年末年始

※ただし、日曜日と祝日が重なった場合は日曜日を開設します。